

さらに加速する、国際交流と国際協同研究

国際化推進事業

グローバルCOE拠点リーダー 桑 昭苑

本グローバルCOE拠点では、若手育成事業の一環として、国際化推進事業に特に力を入れています。

昨年7月には、ロチェスター大学Center for Aging and Developmental Biology(ロチェスター、米国)(事業テーマ:中枢神経系の発生、神経変性疾患)を訪れ、国際シンポジウムを行いました。また、昨年11月にはスエズ運河大学(イスマイリア、エジプト)(事業テーマ:細胞系譜制御:分子基盤から臨床応用まで)とトリニティー・カレッジ・ダブリンSmurfit Institute of Genetics(ダブリン、アイルランド)(事業テーマ:ニューロン分化・ガイダンス・回路形成と関連疾患)を訪れ、国際シンポジウムを行いました。さらに、4月9-10日には台湾のトップ研究機関であるAcademia SinicaのJohn Yu, Alice Yu, Pauline Yen, Bon-chu Chung博士ら(いずれも研究所長あるいは副所長相当)6名のトップ研究者と国内からは東大分子細胞生物研究所の加藤茂明教授、東大薬学部の倉永英里奈講師を迎え、ジョイント国際シンポジウムを行いました(事業テーマ:細胞系譜制御:分子基盤から臨床応用へ)。これらの国際交流事業いずれにおいても講演以外に大学院生を含む若手研究者による

ポスター発表が行われ、活発な討論が行われました。

このように本グローバルCOE拠点では、国外の関連分野の研究機関の訪問・国外研究機関の研究者の来熊などの実質的な交流を行って、若手研究者の新規参入と相互派遣を促進しています。

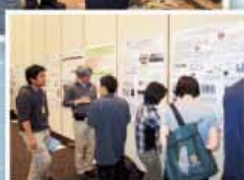
国際交流事業への若手研究者の派遣は、若手研究者の新しい実験手技の習得、研究発表と交流、外国の研究者との人脈形成にきわめて有用に働いていると考えます。また日本で開催することで、より多くの若手研究者が国際交流する機会を得るため、相加的な役割を果たすことが期待されます。これらの成果として、若手研究者の国外への派遣による共同研究の推進が実現しています。今後も国際交流と国際共同研究を継続して推進していきます。

このように、本拠点は、能動的な教育効果と国際競争力のある人材育成、それによる国際的な研究基盤の強化、国内外からの若手研究者の新たな参画という、正のサイクルで展開する国際教育研究拠点の形成を目指しています。

(2008.11.24)
イギリス(ロンドン)ロンドン大学



(2009.4.9~10)日本(熊本)
アカデミアシニカ(台湾)



(2008.7.15~17)
アメリカ合衆国
(ニューヨーク州)
ロチェスター大学



(2008.11.17~19)
エジプト(イスマイリア)
スエズ運河大学



(2008.11.22)
アイルランド共和国
(ダブリン)
トリニティー・カレッジ・
ダブリン



(2008.11.15~16)
エジプト(ファユム)
ファユム大学

② サイエンス・カフェ

研究者と一般参加者をサイエンスで結ぶ

サイエンス・カフェは、若手研究者や一般の参加者が、科学について気軽に話し合う意見交換の場。人々が日常生活の中で感じる科学にかかわる「？」は、研究者にとっても、時に新たな視点へとつながります。



科学について、研究者と一般参加者がざっくばらんに話し合うサイエンス・カフェ。第1回目は、平成20年11月2日の医学部学園祭「本九祭」2008において、発生医学研究センター（現・発生医学研究所）との共同企画として講演会にあわせて実施されました。テーマは「科学者と話そう 幹細胞と未来の医療・くらし」。講演会で講師を務めたセンターの神経発生分野（現・幹細胞誘導分野）の江良折実教授と医学薬学研究部免疫識別学分野の千住寛准教授の2人の講師を交え、司会は、COEリサーチ・アソシエイト（生命倫理学分野）曾澤久仁子氏が行い、若手研究者も一般参加者と医療や倫理について活発な意見交換を行いました。

カフェには、誰でも参加が可能。一般参加者は日常の感覚や理解をもとに、科学にかかわる素朴な疑問を研究者にぶつけます。その疑問に答える若手研究者は、時にそこに新たな疑問を発見し、また、自身の研究が社会の中で行われ、社会と人々にも影響を及ぼしうることをあらためて認識します。

若手研究者と一般参加者にお互いに科学と社会とのかかわりについてより深く考えてもらうこと。一般参加者に科学をもっと身近に感じてもらい、未来の科学と社会のよい関係を築いていくきっかけとなるのが、サイエンス・カフェの目的です。



③ サマー・リトリート・セミナー

若手研究者の白熱した討論が阿蘇を熱くする

リエゾンラボを軸とした人材育成事業の一環として、毎年夏に開催されているサマー・リトリート・セミナー。阿蘇という避暑地を舞台に、参加者は“熱い”議論を交わし、研究の発展を目指します。



このセミナーは、21世紀COEプログラムの一環として平成15年から毎年開催されています。大学院生や若手研究者が一堂に会し合宿。2日間にわたって交流を深めることで、お互いの研究発展を目指すことが目的です。セミナーの内容は、学外から招く講師らによる招待講演のほか、若手研究者によるポスターセッションなど。講演、セッションおよびディスカッションは主に英語で行われ、参加者は国際力も培います。

グローバルCOE「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」においては、これまでに2回のサマー・リトリート・セミナーを開催しています。「細胞系譜制御研究」における多様な分野

で研究を行っている大学院生や若手研究者、累計190名が参加。平成20年8月に開催されたサマー・リトリート・セミナーは、国内外の大学より招かれた講演者6名による招待講演、熊本大学若手研究者6名による講演、ポスター演題数は81という大規模なものとなりました。1日目の夕食後には、招待講演者も交えたポスターセッション、2日目には生命倫理に関するグループディスカッションも実施。セミナーにおいて研究分野の枠を超え昼夜を問わず議論を重ねる参加者の、各研究における更なる飛躍が期待されます。



4 若手シンポジウム

シンポジウムを若手自ら企画・運営し、研究者としての礎を築く

リエゾンラボを軸とした人材育成事業では、若手研究者が運営も発表も行うミニ・シンポジウムや学術集会を開催。若手研究者が運営・発表・討論する機会をできるだけ多くすることで、研究推進や国際舞台でのさらなる活躍を目指します。



若手シンポジウムの運営主体は、グローバルCOEで雇用しているリサーチ・アソシエイトら若手研究者たち。発表や質疑応答はもちろん進行もすべて英語で行われ、将来の国内外を舞台にしたシンポジウム参加や共同研究などの礎を築きます。また、参加する若手研究者たちは異分野の研究発表を聞き討論を交わし、その刺激が自身の研究推進へとつながります。

第1回目となる「Kickoff symposium for the COE Liaison Laboratory」は、平成21年5月19日に開催されました。COEリサ

ーチ・アソシエイトの日野信次朗氏と勝本恵一氏をオーガナイザーとし、COEリサーチ・アソシエイトの勝本恵一氏、河野利恵氏、會澤久仁子氏、柏木太一氏、佐藤卓史氏および、大学院先導機構特任助教の大村谷昌樹氏、石原宏氏、桑田岳夫氏の合計8名が研究発表。各内容は、発生医学から生命倫理まで多岐にわたり、発表後は参加者から積極的な質問が出され、討論や意見交換が行われました。若手研究者自身が開催をマネジメントすることで、新たなパラダイムを形成することも目指しています。



充実した研究・教育環境の創出を支える

グローバルCOE推進室

グローバルCOE推進室 室長 西川 毅

グローバルCOE推進室は、平成20年8月に設置されました。これまで教員や研究者が行っていた国際シンポジウムなどの企画・立案への参画、内容によって担当部局が分かれ煩雑だったさまざまな事務手続きの取りまとめ、そして、拠点にかかわる経理などの事務処理全般を担っています。また、海外からの優秀な人材の確保も役割の一つ。生活面など研究以外のサポート体制の充実も図っています。



推進室のミッションは、「拠点に寄り添い、拠点と協働すること。教員や研究者が研究に専念できる環境の創出と、各研究の推進・発展を目的に、担当する業務はすべて「事業推進担当者や研究者サイドに立つて行う」ことをモットーとしています。

